

ギンブナ (コイ科)



学名 : *Carassius auratus langsdorfii*

別名 : フナ, マブナ, フナメなど

大きさ : 全長 25 cm

特徴 : 小さいときは形態的にゲンゴロウブナとよく似ているが, 大きくなってからはゲンゴロウブナに比べて体高が低いこと, 鰓耙の数が少ないこと (ギンブナは 40~50 程度, ゲンゴロウブナは 100 以上) で区別できる。

雄が少なく, 特に関東地方には雄が全くいないとされる。ギンブナの卵に他の魚の精子を受精させても卵は正常に発生しギンブナとなる。

国内の分布 : 日本全国

県内の分布 : 利根川水系, 牛久沼, 霞ヶ浦水系, 涸沼, 那珂川水系, 久慈川水系, 県北地域の各河川など

県内での生態 : 川の下流の淀みや平地の低湿地帯, 沼地などに主に生息する。霞ヶ浦周辺の水路にも多い。霞ヶ浦での産卵期は主に 4~6 月で, 水生植物に卵を産みつける。雑食性で底生動物や藻類, プランクトンな



写真 : キンブナ.

ども食う。

備考 : 霞ヶ浦のフナ類については形態や食性から 3 タイプに分けることがあり (キンブナの項を参照), ギンブナは中間型に当たる。

主な文献 :

川前政幸 (1991) フナ, コイの産卵場としての水生植物帯の機能について. 茨城内水試調査研究報告, 27: 135-166.

鈴木健二・青柳 克 (1998) 霞ヶ浦のフナの形態学的研究-I 「霞ヶ浦のフナの形態学的特徴について」. 茨城内水試調査研究報告, 34: 22-28.

荒山和則・富永 敦 (2009) 霞ヶ浦の湖岸と周辺の堤脚水路におけるフナ仔稚魚の出現. 茨城内水試研究報告, 42: 1-7.